

容リ法改正対策委員会 2023年度活動報告

2024年6月3日(月)

紙製容器包装リサイクル推進協議会

「自主行動計画2025」フォローアップ報告

【自主行動計画2025】

- 環境に配慮した3Rの推進や主体間の連携に資する取り組みの一層の充実を図る
- 紙製容器包装リサイクル推進協議会の目標及び2年度目にあたる2022年度実績
 - ① リデュースの数値目標(15%)に対して16.2%
 - ② 回収率の数値目標(28%)に対して22.9%

➤ 産業構造審議会 産業技術環境分科会

- 廃棄物・リサイクル小委員会を廃止し、資源循環経済小委員会となりました。9月の第1回小委員会にて「容器包装リサイクルWG」が設置されて、当推進協議会も引き続き委員に就任しました。
- 9月26日の第1回WGにて、「容器包装リサイクル法の再商品化義務量算定係数に係る量、比率等について」審議されました。

名古屋市が「紙単体紙製容器包装」を容リルートから離脱

- 容リルートで全体の約1/3と最大の回収量を占めていた名古屋市が、2023年度より製紙原料向け「紙単体紙製容器包装」を、紙小物との混合回収として古紙ルートでの「雑がみ」に変更しました。
- RPF等の固形燃料に再商品化する「複合紙製容器包装」のみ引き続き容リルートでの回収を継続していますが、容リルートでの全国回収量は、2.0万トンから1.4万トンに減少しました。

複合紙製容器包装のリサイクル推進について

➤ 複合紙製容器包装の回収率向上

- 2023年度の市区への回収量アンケート調査実施に当たり、アンケート内容を討議して新たな質問を追加した。
 - 複合紙製容器包装の回収状況
 - 将来的な回収予定、回収区分
 - 現在の課題等
- 本年度「複合紙製容器包装リサイクル推進WG」を立ち上げるに当たり、回答内容を分析し活用します。

複合紙製容器包装の排出量

紙製容器包装の内訳(複合品の汚れたものを含む)

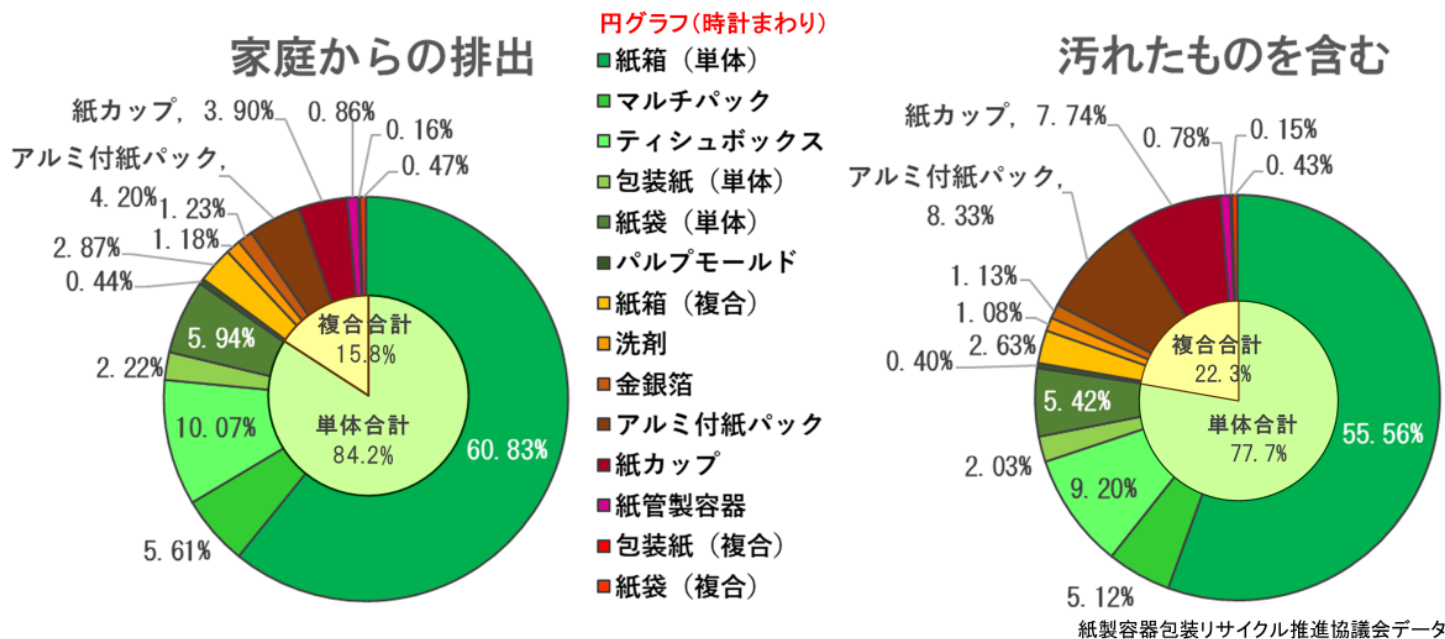
産構審発表紙製容器包装の2022年度業種全体排出見込量：648,777トン

紙単体合計：552,224トン(84.2%)、複合品合計：96,553トン(15.8%)

複合品(複合紙製容器包装)の汚れたものを含めて推計すると

複合品合計：158,102トン(22.3%)

- アルミ付紙パック：59,200トン(8.3%)
- 紙カップ(紙トレー含む)：54,951トン(7.7%)
- その他複合品：43,951トン(6.2%)



CLOMA (グリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス)

- 2023年度のCLOMA総会にて、紙に直接係わる部分である、Key action 5 の「紙・セルロース素材の開発・利用」とKey action 4 の「生分解性プラスチックの開発・利用」が統合され、Key action 4&5 の「代替素材の開発・利用(紙・バイオプラ等)」となりました。
- 法規制・基準分科会では識別マークの区分の在り方について、再資源化分科会で複合素材のリサイクル推進についての討議を行いました。

容り法改正対策委員会 2023年度活動報告

完